

特集「座談会：にいかっぷピーマン」

～後継者・新規就農者の思い～

これまで3回にわたり掲載してきました、にいかっぷピーマン特集の最終回は、ピーマンの生産に関わる4名の方による座談会です。

後継者・新規就農者が増加する中、どのように現状をみており、何に魅力を感じ、今後、どのようなことに取り組んでいきたいのか。

次代の「にいかっぷピーマン」を支えていく、若い世代の生産者たちに、約2時間にわたりお話を伺いました。

座談会メンバーは、新規就農者の田川さんと来年の4月から新規就農する白戸さん、後継者の山本さんと泉澤さんの4名です。



後継者
山本 将之
やまもと まさゆき
・住所 宇太陽
・生産物 ピーマン

白戸 町独自の補助制度も比較的的条件が良く、就農までの流れもイメージしやすかったです。

田川 確かに、新規就農の支援体制が充実していると思えました。

泉澤 私には恵庭の雇用事業の形態で働いていたので給料が出ていたのですが、新冠はさらに条件が良かったです。

田川 Aコープが閉鎖して、直売コーナーで地元の新鮮な野菜が買えなくなったのは残念ですね。

山本 自分の周りにも、Aコープの直売コーナーで販売していた人がいますが、閉鎖してしまうと売場所がないので、今は、作らなくなってしまいました。

泉澤 他に、農業研修生だと夏の繁忙期は全く休みがなく、冬の閑散期にまとめて取得することが多いけれど、支援員制度だと夏の繁忙期もきちんと休みがとれる良さがありますよね。

泉澤 国の制度で青年就農給付金という制度ができましたが、いろいろと条件があるようです。その他は、よく知りません。



新規就農者
田川 由香
たがわ ゆか
・住所 宇泉
・生産物 ピーマン

田川 池袋に移住先などを紹介する相談所があり、そこで紹介を受けました。その後、主人が新冠を訪れ、海と山に囲まれた土地に魅力を感じ、新冠に移住することを決意しました。

泉澤 軽トラ市は、恵庭のようにそれを経営の主軸にして、どんどん売り上げを上げる場所にはなっていません。

田川 新冠というよりも、北海道に住みたいという憧れがありました。

田川 朝日小学校の少人数の学校に通うようになり、人見知りもなくなり、積極的に誰とも話しができるようになりました。

泉澤 私の知り合いも恵庭で農家をしていますが、直売所の売り上げだけで一家5人が生活しています。

新冠で農業を始めるきっかけ

田川 新冠というよりも、北海道に住みたいという憧れがありました。

泉澤 なぜ、北海道を選びましたか？

田川 東京に住んでいる時、半年間、阿寒のお土産屋でアルバイトをしていました。その時の印象が良く、北海道に住みたいという憧れがありました。

田川 新冠に来て、お子さんの様子は変わりましたか？

白戸 私は大学でプラスチックの勉強をしていましたが、「きせきのリンゴ」の本を読んでから、農業をしたいと思います。農業は、いつの時代も重要な仕事であり、自分で生産し出荷できることに魅力を感じました。

泉澤 軽トラ市は、恵庭のようにそれを経営の主軸にして、どんどん売り上げを上げる場所にはなっていません。